



FPGビジネス  
コンサルティングの

# 釣り道

ちよつと  
つりみち

[ 幽玄の火口湖  
ハス編 ]  
Vol.19



①神秘的な湖・御池 ②霧にかすむ霧島神宮 ③これがハス。関西では「ケタバス」と呼ばれる ④坂本龍馬と妻お龍のハネムーンの地・霧島 ⑤御池に行くまでの小道

「ひむか」の国にある、天孫降臨の地、霧島。

遠い昔、日の出づる方に向けるくと景行天皇が呼んだその地には、さらに遠い昔、神々の子孫が降り立った霊峰がそびえ立っています。深い霧に包まれることも多いその山塊の麓には、厳かな霧囲気を纏う霧島神宮が鎮座しています。その程近く、国内最深の火口湖が緑の中に青く澄んだ神秘的な水面を湛えていることはあまり知られていません。

周囲4kmにも満たない森の中の神秘的な湖の100m弱の水深は、湖水の最深部に冷水魂を保ち続け、南国・宮崎には似つかわしくない冷水性のニジマス。他、国産や外来の様々な淡水魚を育てています。そのニジマスが活発に活動し釣り人が岸から釣りで狙えるのは言うまでも殆ど鹿児島に近い南国の宮崎です。気温水温が低い冬期がメインになります。

しかし、いざ神秘的な火口湖を目にした時、筆者は竿を出さずいらなくなりました。南国の初夏の日差しが夕立で冷やされ、湖面に霧が立ちのぼり幽玄な様子を魅せるとき、筆者はその湖岸に行んでいました。

水面下の様子がわかる偏光グラスをはめて水面を見やると、増水したのか水中に立ち木が沈んでいます。こんなところには必ず獲物がいます。その横の、さらに深くなっていると思しき箇所には、スプーンと呼ばれる金属片の疑似餌を投げ込みます。煌きながら沈んでいくスプーンに、一瞬違和感を感じ、ハリ掛かりさせる動作をしましたが何も起こらず。それからは、ゆつくりとリールを巻いて水中を泳がせてきました。

すると、「ガツンッ！」と強い反応があり、あわやニジマス!?と期待しつつもバタバタと暴れながらも上がったのは軽めの青紫色に輝く「ハス」と呼ばれる魚。この魚は元々九州には生息しておらず、本来は関西の琵琶湖水系にのみ分布しており琵琶湖産の稚鮎の全国放流に混じって生息域が拡大した国産外来生物と言われる淡水魚なのです。

筆者は、お前も知らん土地に生まれて大変やな、一声かけてやさしく湖面に返してやりました。夕暮れ時には神秘的な霧囲気の火口湖も夜のとほりが下りると怖い(泣)。  
……ので、もう帰ります。